



## 山あり谷あり子育て雑感 Vol 3



### 「アドラー博士の子どもを勇気づける 20 の方法より」

ハッピー夏休み！子どもたちの喜ぶ顔が見たい一心で、我々親というのは必死に夏のプランを立てますよね。日本帰省に山や海、旅行にテーマパークに様々なイベントに、、、本当にお疲れ様です。普段学校ではできないリアルな夏の体験を通して、家族の絆にあらためて気づいたり、新しいことに挑戦する気持ちや知的好奇心を向上させるまたとない夏となりますよう、お祈り、しております。見違えるようにたくましく大きく成長したお子さんたちとまた新学期にお会いできることを楽しみにしています。土産話も期待していますね！

さて、今回はゴマブックス出版「アドラー博士の子どもを勇気づける 20 の方法」から、「なるほど！」とうなったいくつかの項目をリストアップしてみました。オーストラリアの精神科医アルフレッド・アドラー博士は、「叱る子育て・褒める子育て」ではなく、「皆といっしょに協力して生きていくことのすばらしさを教えること」で勇気を持って行動できる子どもを育てる方法を提唱されており、大変興味深くページを開きました。

- ①「わが子が生きているだけで幸せ」と考えることが、子どもへの何よりの勇気づけ
- ③頼りない子どもほど、一人前の大人として扱うことで勇気が生まれる
- ⑥子どものプラス面を見つけ出す親の「ポジティブ思考」が、子どもを勇気づける
- ⑧うれしいときは「感情的」に、怒ったときはつとめて「理性的」に接する。
- ⑨子どもは、他人との比較でなく、自分にしかない資質に注目されると勇気づけられる。
- ⑪「ダメ」「ガンバレ」「早くしなさい」は、子どものやる気をくじく三大禁句
- ⑫子どもを非難する「おまえ言葉」より、親自身を語る「私言葉」が勇気づけには有効
- ⑬黙って親のいうことをよく聞く「いい子」は実は最も勇気づけが必要な子
- ⑮「家族ルール」をつくり、守らせることで、子どもは「勇気ある人間」になれる
- ⑲なにをしても、悠然とみてる大人が1人でもいれば、子どもは「悪」に染まらない
- ⑳できていない部分に子どもの目を向けたいなら、まずできている部分を評価する

皆さんはこれらの言葉、どう感じますか？

文責 園長 田野瀬夏子

